

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071000345
法人名	社会福祉法人 福岡ひかり福祉会
事業所名	宅老所よりあい
所在地	福岡市中央区地行1-15-14 (電話) 092-761-4260

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 10月 23日
評価確定日	20年 12月 15日

【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 9年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 5 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階 造り
	2階建ての ~ 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ他	7,000 円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年10月1日現在)

利用者人数	4名	男性	1名	女性	3名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	0名	要介護4	0名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	80歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿部医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大通りから一步入った町並みにある事業所は、古式和風で趣と情緒を醸し、周囲の家並に調和し、ほのかな懐かしさがあり親近感が持てる。開放的な前庭と玄関は、早くより地域住民、地域の一員としての利用者の日々があり、地域との繋がり、交流は理念に基づいたものと伺える。事業所はケアの向上を目指し、年度総括時に研修計画を立て、実行しケアに活かしている。その姿勢は、利用者や家族、地域住民の信頼を得ており、ご近所応援団ネットワークや事業所の祭り・七夕コンサートへ大勢の参加を得ている。全職員は地域福祉貢献への思いが深く、利用者一人ひとりの尊厳とその人らしさへの支援に熱意を持ち取り組んでおり、地域に根ざした更なるケアの質の向上に期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価課題は全職員で話し合い、改善シートを作成し、具体的な改善を日々確認するなどの取り組みを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で意見を出し合い、それを反映させながら取り組み、日々のケアを見直す機会にしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催し、事業所から利用者やサービスの状況、評価への取り組みの報告等を行っている。そこで問題・課題を明確にして、意見・アドバイスを貰っている。地域の一人暮らしの高齢者の介護相談で、食事支援に取り組むなど、そこでの意見をサービスに活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	管理者・職員は意見をよく聴くように声かけし、話し易い雰囲気作りをしている。定期的に家族会を開催、意見箱を設置している。第三者相談窓口を表示し説明している。来訪時には暮らしぶり、健康状態を話し事業所便りや手紙・写真を手渡している。家族から外出の話が出たので、1泊旅行を実施するなど適切に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の福祉施設・地域住民・近隣の商店主・短大などと「ご近所応援団」を結成し、月1回定例会を開き、話し合い相談し合い親睦を図っている。よりあい祭りや、七夕コンサートを開き、地域の子供達など大勢参加がある。近隣からのボランティアもあり、地域交流に日常的に努めている。さらに「見守り隊」結成を近隣地域へ呼びかけている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者や家族の意向を尊重し、その人らしい地域での人生継続が出来るよう、地域と共に歩き支え合う関係作りを全職員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝礼、終礼時や、毎金曜日に全職員でミーティング、勉強会を行い、その際理念の確認と全職員の共有を図っている。日々理念の実践に向け言葉掛け・態度・記録などに取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉施設、地域住民、近隣の商店主、短大等と「ご近所応援団」を結成して、月1回の定例会を開き、話し合いや相談等を受け親睦を図る。また、祭りやバザー・七夕コンサートを開き、地域の子供達など大勢の参加があり、地域の祭りにも出かけている。近隣のボランティアとも日常的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で意見を出し話し合い、それを反映させながら取り組み、日々のケアを見直す機会にしている。外部評価は、課題を全職員に話し、改善シートを作成、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、事業所から利用者やサービスの状況、評価への取り組みの報告等をしている。そこで問題・課題を明確にして、意見・アドバイスを貰っている。地域の一人暮らしの高齢者の介護相談で、食事支援に取り組むなど、そこでの意見をサービスに活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所便りを持参し、行政に困ったことや相談事を話し助言を貰っている。地域支援活動を推進するため担当課以外の行政とも連携し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用開始時や折にふれ、制度につき管理者や職員は、利用者・家族に説明している。内部・外部の研修で職員は学び理解している。テキスト・研修記録などファイルし、必要な人にはいつでも活用できるよう支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が毎日など比較的に多く、その都度暮らしぶりや健康状態を報告している。また3ヶ月に1回発行の事業所だよりや、1、2ヶ月に1回の手紙や写真などを手渡ししている。状態変化時には家族に電話で直ぐ報告している。家族と話し合い、金銭管理は行っていない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年4回家族会を開催し、管理者・職員は意見をよく聴くように声かけし、話し易い雰囲気作りをしている。意見箱も設置している。1泊旅行等の話が家族から出たので、実行するなど、適切に対応している。第三者相談窓口については、表示し説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務時間と適性を考慮したうえで勤務配置をし、職員の異動や離職を最小限に抑えている。同屋内の通所介護との交流があり、利用者や職員は馴染みの関係ができていますので、職員異動時もスムーズに対応できるような体制がある。やむを得ず離職する際には引継ぎを十分に行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に公平性を持ち、年齢・性別で排除せず、研修・教育訓練・定年なども差別していない。個々のキャリア、個性を考慮し、誰もが安心して生き生きと働きながら社会参加や、自己表現が出来るよう職場作りを図っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者（管理者）、全職員は人権教育に関する外部・内部の研修に参加し、全員で共有し啓発活動をしている。テキスト・研修記録などが整理されている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は日常的に学ぶことを推進し、内部・外部で研修を受ける機会がある。年度総括時に、職員の意見を聞き、年間の研修計画をたて、組織的に参加出来るよう推進している。働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に加入し、管理者、職員は同業者と交流しサービスの質の向上に努めている。近隣の他事業所とは月1回体験話や、知恵を出し合うなどの行き来をし、相互間の活動を通じて勉強に繋げている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者に見学をして貰い、職員が自宅訪問や病院訪問をして顔馴染みの関係を作りながらの利用が出来るよう工夫している。通所介護から引き続き受け入れの人は、職員や他利用者とも既に顔馴染みができている。即利用の場合は、家族に1週間ぐらい来て貰い、落ち着くよう工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	身体レベルの重度化や意思の疎通困難がみられ、得意分野の力の発揮は望めないが、利用者の穏やかな存在そのものが生活・人生の師であり、表情や動作によって「喜び」「哀しみ」「楽しさ」「不安」を共感し、学んだり支え合う関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が重度で言葉や表情が少ないので、利用者の少しの動きにも留意し、希望、意向の真意を推し量り週単位で記録している。家族来訪時に情報を得て、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の思いや意向をよく聴き、全職員の気付き・アイデアを話し合い、毎日の記録・毎週のまとめ・毎月のモニタリング基に、作成している。家族への説明を行い、同意の署名・押印を貰っている。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しや、月1回の課題分析を行なっている。利用者の状態変化時には、状況に応じて随時の介護計画の見直しを行ない、家族へは電話で報告している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院か事業所での対応かは協力医・家族・職員で話し合い、なるべく入院は避ける取り組みをしている。入院が必要な場合は2週間をめどに早期退院に向け家族・医療機関と連携をとっている。本人・家族の状況に応じて、通院や送迎の必要な場合は柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族などの希望・気持を大切にし、今までのかかりつけ医や、事業所の協力医の訪問診療を支援し、情報の伝達方法については、話し合い合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、いつ・何処で・誰と・どのように、と利用者の意向を尊重しながら、家族・かかりつけ医・全職員で話し合い方針を共有している。看取りを自宅で望まれる場合は、家族への支援を職員は行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに注意し、言葉かけ・対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、外部・内部の研修・ミーティングをし職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが一人ひとりの体調・状態に配慮しながら、その日・その時の利用者の気持を大切に、寄り添い支援している。食事の時間はゆったりと利用者のペースを尊重しさり気なく支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は同じものを同じテーブルで、介助と見守りをしながらゆっくり時間をかけ食べている。献立の話か、好みの話か、穏やかな会話をして、食事を楽しむ雰囲気配慮している。夕食の献立は利用者と相談しながら作っている。嗜好調査をして好みを把握している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できる体制をとっており、利用者の希望に合わせて、入浴を楽しめるよう支援している。入浴拒否の場合は、時間や人を代えてみたり、近くの温泉に出かけてみるなど、工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個性や特技を把握し、出来そうなことを自発的に行なうのを待ち、習字に寄り添い見守る。得意の歌を披露してくれる事があったり、広縁で花を眺めた後、居眠りする人、思い出話をする人、聴く人などを見守り、お互いにお互いの存在が役割ではないかと捉え、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自力での外出は困難な利用者がほとんどであるが、利用者の状況や天候などに配慮し、週1回程度の車椅子での散歩や、2ヶ月に1回位のドライブ、年2回ぐらい家族も含めた1泊旅行を行い、外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠はない。職員は利用者の気持を把握し、見守りと付き添いを行っている。近隣からの見守りや声かけの協力も得られている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年4回避難訓練をし、地域住民の参加を得ている。災害時にはすぐ駆けつけられる協力者を、30人程確保している。築100年の木造家屋のため、夜勤者の他に当直者を置くなどの配慮をしている。緊急時の訓練を全員受け、非常食、備品などを準備している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が、全利用者分ある。栄養バランス献立に付き、年1回、かかりつけ医や協力医にチェックして貰い専門的なアドバイスを受けている。乳製品はおやつに多く使用し、嗜好を考え職員が食事を作っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には床の間と畳があり、落ち着いた家庭そのものを感じる。家族作の見事な書を掛け、色紙を飾り、広い縁先には可憐な草花が咲いている。古い棚、時計も雰囲気に適し、採光・換気、音量も適切で居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具や小物、手鏡、家族写真、時計など持ち込み飾り、その人らしい個性的な居室にし、居心地良く過ごせるようにしている。</p>		

※ は、重点項目。